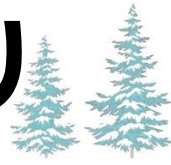




学校だより

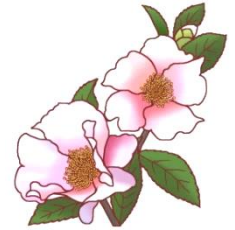


12月22日 <臨時号>

師走考 ～ 大隅先生のノーベル賞受賞から ～

校長 井出 了一

師走の街には色とりどりのイルミネーションが輝き、木枯らしの冷たさが身にしみる季節になりました。本日2学期の終業式を行い、今年の授業をすべて終了しました。これまでの皆様方の御協力に、心より感謝申し上げます。



冬休みに入ると、暮れの慌ただしい時期、そしてお正月のにぎやかな時期を迎えます。子どもたちの安全、特に交通事故には十分に御配慮ください。また、空気が乾燥してインフルエンザや胃腸炎などの流行が心配されます。うがいや手洗いなど、予防のための習慣も引き続きお願いいたします。よき日本の伝統文化にふれ、新たな年を迎え、新鮮な気持ちで3学期に臨んでください。

さて、今月10日に日本の生物学者 大隅良典さんがノーベル医学生理学賞を受賞されました。大隅さんは、「生物の細胞内で不要なたんぱく質などを分解し、エネルギー源などとして再利用する働きである『オートファジー(自食作用)』を分子レベルで解明した」とのこと。マスコミでも、さまざまな病気の解明に役立つと報じられています。



この大隅さんが、受賞前の記念講演で興味深いお話をされていました。戦後間もない時期に幼少期を過ごし、いつもお腹をすかせて昆虫や星空を眺めて楽しんでいたそうです。じっくり観察しているうちに興味がわき、自然への関心が高まって、科学の道に進むことになったということです。

多感な時期に、たくさんの方に興味を持って体験することが大切であり、その経験が学びへとつながっていくのでしょうか。ネット社会になり、すぐに検索できたり、バーチャルで実体験を伴わなかったり、科学技術の進歩が便利さをもたらす代償として体験が不足してしまうのは残念なことです。小学生の時期に、学習もスポーツも、読書や友達との遊びも、何にでもチャレンジして実際にやってみて、その中から本当の自分の適性を見つけられたら幸せだと思います。

もちろん、読み書き・計算といった基礎的な学習の習得は大切です。しかし、学力はその子の一つの側面でしかありません。自立して、変化の激しい時代を主体的に生きていくためには「経験値」を高めたいものです。この冬休み、お子さんと一緒にたくさん本を読み、たくさん体を動かし、たくさんの人と関わり、子どもが学んだことを「応用する力」さらに「活用する力」を高めさせてください。

今年もたいへんお世話になりました。よいお年をお迎えください。

「学校とは・・・」(中央教育審議会の論点整理より)

学校とは、社会への準備段階であると同時に、学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもある。子供たちは、学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。・・・(中略)・・・ このように、学校は、今を生きる子供たちにとって、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場であるとともに、未来の社会に向けた準備段階としての場でもある。

